



(再現)

看護用品の解説

使用したガーゼは洗濯して再使用した。手術用は常に新しいガーゼを用いた。ガーゼは洗濯するとしわくちゃになるので、ガーゼを伸ばす板を使った。その板は、裏側からくぎを2本打ち込み、それにガーゼをひっかけて伸ばすようにしたものである。

看護用品にまつわるエピソード

伸ばしたガーゼの枚数がある程度重なったら板から外して天日に干した。当時は道路が舗装されていなかったので埃が多く、乾いたら埃がついていて、たたいてほこりをおとしてからたたみ滅菌した。ほこりをたたき落とす作業は好きだった。

ガーゼを伸ばす時、板ではなく裏返しにした大きなベースンに広げる方法もあった。血液がついたガーゼも再生して使ったが、膿などでひどく汚れているものは捨てた。コザ病院時代はガーゼを素手で洗っていた。当時、手袋は手術室でしか使わなかった。今考えると、感染という意識はなかったと思う。手術室のガーゼの洗濯は看護助手が行っていたが、衛生材料などの洗濯は看護学生も行っており、結核病棟のマスク洗いは看護学生の仕事であった。このような仕事は息抜きの楽しい時間であった。

久留米大学医学部から来た医師によって肺外科手術が盛んに行なわれた。1966年3月に中部病院に移転した後は、ガーゼの再生はしなくなったが、包帯はまだ再生していた。
(備瀬信子氏他, 2004)

解説

当時、ガーゼは貴重であったことから洗濯・滅菌してから再使用されていた。ガーゼだけでなく、包帯も再使用されていた。現在は、感染予防と人件費の観点から、汚染したガーゼは再使用されていない。さらに、滅菌後の汚染を避けるために、滅菌ガーゼを使い切るよう小分けして包装するなど、滅菌包装の様態が大きく変化している。

利用者の安全を守るという観点から禁じているシングルユース(単回使用)器材の再滅菌使用が、ほとんどの病院で行なわれていることが報告¹⁾されている。再使用は内視鏡検査や内視鏡下手術に使用する器材に多いことが指摘され、その背景には医療器材の経費削減があると考えられている。再使用に伴う器材の安全性の問題と、経済性や医療廃棄物処理の両面から、それぞれの器材の使用方法について検討すべきであると考えられる。物品の種類は異なるが、医療器材の使用をめぐる問題として、かつてガーゼが再使用されていたこととの類似性があると思われる。

1) 小林寛伊: シングルユース(単回使用)器材の再滅菌使用に関する調査 2, 病院サプライ, 8(1): P 22